

読む

物語文を読もう

(ガチヨウのたん生日)

名前

こたえとせつめい

次の文章を読んで問題に答えましょう。

ガチヨウのたん生日

新美南吉



あるおひやくしょうやのうら庭にアヒルや、ガチヨウや、モルモットや、ウサギや、イタチなどが住んでおりました。

さて、ある日のこと ガチヨウのたん生日というので、みんなはガチヨウのところへ「ちそつにまねかれて行きました。

これで、イタチさえよんでくれば、みんなお客がそろつわけですが、さて、イタチはどうでしょう。みんなは、イタチは決してわるものではないことを知っております。けれど、イタチには、たったひとつ、よくないくせがありました。それは、おおぜいの前では、言うことができないようなくせでありました。何かともうしますと、ほかでもありません、大きなげしいおならをすることでありませ。しかし、イタチだけをよばないと、イタチはきつとおこるにちがいありません。そこで、ウサギがイタチのところへつかいにやってきました。

「今日はガチヨウさんのたん生日ですからおでかけください。」

「あ、そうですね。」

「ところで、イタチさん、ひとつおねがいがあるのですが。」

「何ですか。」

「あの、すみませんが、今日だけはおならをしないでください。」

イタチははずかしくて、顔を真っ赤にしました。そして、

「ええ、決してしません。」

と 答えました。



(新美南吉「ガチヨウのたん生日」より)

一、登場人物をすべて書きましよう。

アヒル
ガチヨウ
モルモット
ウサギ
イタチ

登場人物とは 人のように話したり動いたりするものをいいます。木がしゃべったら、それも登場人物です。ここでは、ウサギやイタチがしゃべっていますし、他の動物も人間のように書かれていますね。

二、登場人物の中で、「みんな」の中にいないのはだれですか。

イタチ

登場人物の中で、ガチヨウのところに来ていないのはだれですか？「イタチさえよんでくればみんなお客さんがそろつ」と書いてあるから、来ていないのはイタチですね。

三、「さて、イタチはどうしましよう。」と考えたのはなぜでしょう。ア、イにあてはまる言葉を入れて、次の文を完成させましよう。

イタチは決して ア ではないが、

イ をするくせがあったから。

ア わるもの

イ 大きなげしいおなら

どうしてそう思うのかは、同じだらしく書いてありますね。そのまま書くと長い文ですが、大事なことだけ書くことも大切ですね。

四、イタチが顔を真っ赤にしたのはなぜですか。次のア〜ウの中からあてはまるものをえらんで、 に記号を書きましよう。

ア 大好きなガチヨウのたん生日にさそわれたから

イ 自分のよくないくせについてお願いをされたから

ウ 自分がさいにさそわれてくやしかったから

イ

顔を真っ赤にしたのは、はずかしいからです。イタチのつもりになって考えるとよくわかりますね。

上の文をよく読んで次の問いに答えましょう。

手ぶくろを買いに

新美 南吉

寒い冬が北方から、きつねの親子のすんでいる森へもやって来ました。

ある朝、ほらあなから子どものきつねが出ようとしたが、

「あつ。」

とさげんで、目をおさえながら母さんきつねのところへこぼけて来ました。

「母ちゃん、目に何かささった、ぬいてちょうだい早く、早く。」

と言いました。

母さんきつねがびっくりして、あわてふためきながら、目をおさえている子どもの手を

A 取り

のけてみましたが、何もささってはいませんでした。

母さんきつねは、ほらあなの入り口から外へ出てはじめてわけが分かりました。昨夜のうちに、真っ白な雪がびっさり降ったのです。その雪の上からお日さまがキラキラとてらしていたので、雪はまぶしいほど反し

やしていたのです。雪を知らなかった子どものきつね

は、あまり強い反しやをうけたので、目に何かささった

と思ったのです。

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのよう

にやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉が、しぶき

のようにとびちって小さいにじがすつとつるもので

した。

するととつぜん、うじるで、ドタドタ、ザッと

のすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつ

と子ぎつねにおっかぶさって来ました。子ぎつねはび

っくりして、雪の中にころがるようにして十メートル

も向こうへにげました。何だろつと思つてふり返つて

みましたが何もいませんでした。それはもみのえだか

ら雪がなだれ落ちたのです。まだえたとえだの間

から白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。



物語の最初には、物語の季節や場所、登場人物などが書かれていますよ。

「何もささっていない。」とあるので、子ぎつねがそう思った理由を読み取っていくことが大切です。

気持ちを表す動きですね。母さんきつねの気持ちを考えるといいですね。

注意深くおくびょうな子ぎつねの様子がわかる文章です。文がつながるように書きましょう。

物語には、初めの説明(場面の季節、場所、登場人物など)がかならずありますね。

一、季節と登場人物を文中から抜き出しましょう。(季節 一文字 登場人物 六文字)

季節 **冬**

登場人物 **きつねの親子**
(六文字)

二、子ぎつねが目には何かささったと思ったものは何ですか。

当てはまるものに丸を付けましょう。

- () おそろのおそろ
- () 真つ白な雪
- () お日さまの反しやした強い光
- () もみの木の枝

三、A の中には、子ぎつねのことを心配する母さんきつねの気持ちを表す言葉が入ります。当てはまるものに丸を付けましょう。

- () おそろのおそろ
- () つきつきしながら
- () ゆっくりと

四、上の文には、ものすごい音とかぶさってきた雪におどろく様子が書かれています。それはどんな様子でしたか。次の文の [] に言葉を入れて完成させましょう。

雪の中に [] ころがるようにして

十メートルも向こう へにげました。

五、上の文章は、大きく三つに分けることができます。書かれている順番を () に書きましょう。

- (2) () 子ぎつねが初めて雪を見た場面
- (1) () 物語の場面を説明するだん落
- (3) () 子ぎつねが雪の中で遊ぶ場面

手ぶくろを買いに(2)

名前

答えとせつめい

手ぶくろを買いに

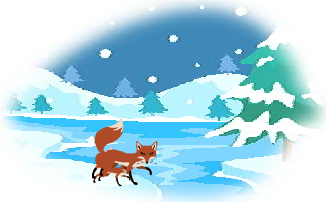
新美 南吉

雪の中であそび、つめたくなつた子ぎつねの手を見て、母さんぎつねはてぶくろを買ってあげようと思います。そこで、親子のきつねは、夜がくるのを待っていました。

暗い暗い夜がふるしきのよつな

かげをひろげて野原や森をつつみにやつてきましたが、雪はあまり白いで、つつんでももつつんでも白くうかびあがっていました。

親子の銀ぎつねはほらあなから出ました。子どものはお母さんのおなかの下へ入りこんで、そこからまんまるな目をぱちぱちさせながら、あつちやこつちを見ながら歩いて行きました。



やがて、行く手にぽつとり、明かりが一つ見え始めました。それを子どもはぎつねが見つけて、「母ちゃん、お星さまは、あんな低いところにも落ちてるのねえ。」と聞きました。

「あれはお星さまじゃないのよ。」
 と言つて、そのとき、母さんぎつねの足はすくんでしまいました。

「あれは 町の灯(ひ)なんだよ。」
 その町の灯を見たとき、母さんぎつねは、あるとき町へお友達と出かけていつて、とんだ目にあつたことを思い出しました。およしなさいつて言つのも聞かないで、お友達のきつねが、ある家のおひるをぬすもうとしたので、おひやくしょうに見つかつて、さんざ追いまくられて、命からがらにげたことでした。

「母ちゃん、何してんの。早く行つてよ。」
 と、子どものきつねがおなかの下から言つたのでしたが、母さんぎつねはどうしても 足が進まないのでした。そこで、しかたがないので、ぼつやだけを一人で町まで行かせることになりました。

(1) 手ぶくろを買いに。(新美南吉より)

上の文をよく読んで次の問いに答えましょう。

- 一、 線 はどんな様子を表していますか。
 あてはまるものに丸を付けましょう。
- *夕方から夜になっていく様子 ()
 *真夜中の様子 ()
 *夜から朝になっていく様子 ()

「暗い暗い夜が森をつつみにやつてきた。」というところは、まだつつんでいないということだから、まだ真夜中になつていないということになりますね。

二、この子ぎつねは、はじめて夜に外を歩いています。そのことが分かる文を探して、次の文を完成させましょう。

まんまるな目を **ぱちぱち** させながら、
あつちやこつち を見ながら歩いて行きました。

はじめてのできごとを体験する時、あなたはどんな行動をしますか。子ぎつねも、はじめて見る夜の景色におどろいたり、興味をもったりしている様子が分かりますね。

三、 線 の「町の灯(ひ)」を見て、子ぎつねは何だと思いましたが。

お星さま

会話をよく読むと分かりますね。「あれは〜」と母さんぎつねが二回言っていますが、「あれ」が指すものが何か考えながら読むことも大切です。

四、 線 の「足が進まない」について、次の問いに答えましょう

(1) 足が進まない。」と同じ意味の言葉を文中からさがし、次の文を完成させましょう。

母さんぎつねの **足** は **すくんで** しまいました。

同じ意味をもった言葉ですね。「すくむ」という言葉は身がちぢんで動かないという意味で使われています。

(2) なぜ、母さんぎつねは足が進まなくなつたのですか。当てはまるものに丸を付けましょう。

- *町の灯が星のようできれいだつたから ()
 *こわかったことを思い出したから ()
 *子ぎつねだけで町に行かせたかつたから ()

「足が進まない」は、進もうと思っているけども、体がいふことをきかない様子を表します。進もうと思つている以上に行きたくない理由があるので進めないのですね。母ぎつねにとつて行きたくない理由を読み取りましょう。

最近、中村家に首輪のない野良猫が来るようになった。茶色と白の模様をもった野良猫、まあ、もちろん、リビングの軒下あたりをやつてきては、えさをやっていたから、なついていたんだろ。しかし、野良猫は野良猫、絶対に近づかない。近づかないけど、朝と晩になると必ず中村家に来て、えさをねだる。き彼は、何となく野良猫の境界線を越え、家猫の敷居をまたぐとしてるようにも感じた。



まだ、そのときには彼に名前を与えていなかった。はじめは、中村家の人々は、野良猫！と呼んでいたが、あることをきっかけに名前を与えることになった。それは、ある朝のこと、中村家の人々が朝食を取っていると、えさをねだりに彼がやつてきたのだ。しかし、仕事にでかけるべく急いでいた中村家の人々は、えさをあげなかった。すると、彼は自分の存在をアピールし始めた。まず第一弾は、猫の小技で有名な「猫パンチ」を窓にかますのだ。コツコツとかわいい音をするが、それでも中村家の人々は無視して食事をガツガツと食べている。すると彼は第二弾となる思わぬ行動に打って出てきた。中村家のリビングの窓は、下半分が磨りガラスで上半分が透明なガラスである。そして、その窓のすぐ外には、ちょうど磨りガラスと透明ガラスの境目までぐらいの高さがある岩があった。そのすぐそばにヒイラギが立っている。彼は、その岩を登り、ギにも登った。そして、彼はちょうどヒイラギの枝が二股に分かれているところにすっぽり収まるように横たわり、両方の前足の上にあごを載せるようにして、枝をゆするのだ。ヒイラギがゆつさゆつさとゆれる。朝食を食べていた中村家の人は目を疑った。もう、まるで「だだをこねている子ども」のようだった。ゆつゆつと枝をゆする彼。中村家の人々は、思わず吹き出してしまい、しょうがないとばかりに母親が魚を与えた。その行動は、中村家の人々がえさをやらないときには、必ずしていた。

「何か、飼いだかじゃないけど、飼いだね。名前は、野良猫だから、ノラちゃんだな。」

誰かが言ったというわけではないが、そうなってしまった。野良猫のノラ。決して家には上がらないし、あげない。野良猫は野良猫なのだ。でも、ノラなのだ。彼のベッドは、庭のプランターである。

登場人物については、その姿やとくちょう、性格などが必ず書かれています。文章の初めには、登場人物や場面設定が書かれていることがほとんどです。1段落では、ノラがどんな猫なのかが書かれていますね。

上の文章を読んで問いに答えましょう。

一 「ノラ」の姿や様子を一段落の中から読み取り、次の [] に合う言葉を書きましよう。

・ **首輪のない** のない野良猫

・ **茶色と白の** の模様をもった野良猫

・ **絶対に近づかない** が、朝と晩になる

と必ずやつてきて **えさをねだる** 。

二 「だだをこねている子ども」とはノラのどのような姿を言っていますか。当てはまるものに丸をつけましょう。

- () 「猫パンチ」をかます姿
- () 枝をゆする姿
- () 魚を食べる姿

三 飼いだかじゃないけど、飼いだね。と考えたのはなぜですか。次の条件に合わせて書きましよう。

【条件】飼いだではないといえる様子と飼いだといえる様子を、ノラの行動から整理して書くこと

(例) ノラは野良猫のように家にとがったり、人に近づいたりはいしませんが、時間になると飼いだのようにえさをもらおうとするか。

* 飼いだの部分と飼いだではない部分をノラの姿から書いていれはよい。

題名は、その文章で作者が一番言いたいこと・伝えたいことを、短い言葉や文にしたものです。この文章全体では野良猫から飼いだとして認められたノラのこと書かれていますね。

四 [] 題名 [] に当てはまると思つものに丸を付けましよう。

- () 野良猫ノラ登場
- () ノラの必殺技「猫パンチ」
- () 中村家の楽しみ